

再発乳がんの治療



初期治療を受けた乳がん患者のうち約3割は10年以内に再発しますが、まれに10年以上経過してから再発する場合があることも乳がんの特徴です。

再発の治療は、局所再発と遠隔転移とでは大きく異なります。

手術を行った側

いずれの遠隔転移も小さい場合は症状がありません。画像検査で再発を確認した部位

「臓・脳などに起つる再発を「遠隔転移」といいます。肺がんや消化器のがんに比べて、乳がんは骨に転移しやすい特徴があります。骨に転移した場合は、その部位に痛みを感じたり、骨折を起こすことがあります。痛みに対して、麻薬系鎮痛剤や放射線照射を行います。抗がん剤以外に骨転移の進行を抑える点滴があります。

生活の質を重視する

暮らしの広場

の乳房や周囲の皮膚・リンパ節に起つて再発を「局所再発」といいます。皮膚の発赤や皮下のしみとして自覚されます。残存乳房内再発には、追加乳房切除を行います。他の局所再発は再発部位を切除したり、放射線照射を検討します。

以外にもがん細胞は潛んでいたため、再発部位を切除することは通常ありません。多くの場合完全治癒が望めない」とから「生活の質を重視した延命」が治療の第一目標となり、全体的に効果のある薬物療法が治療の中心になります。

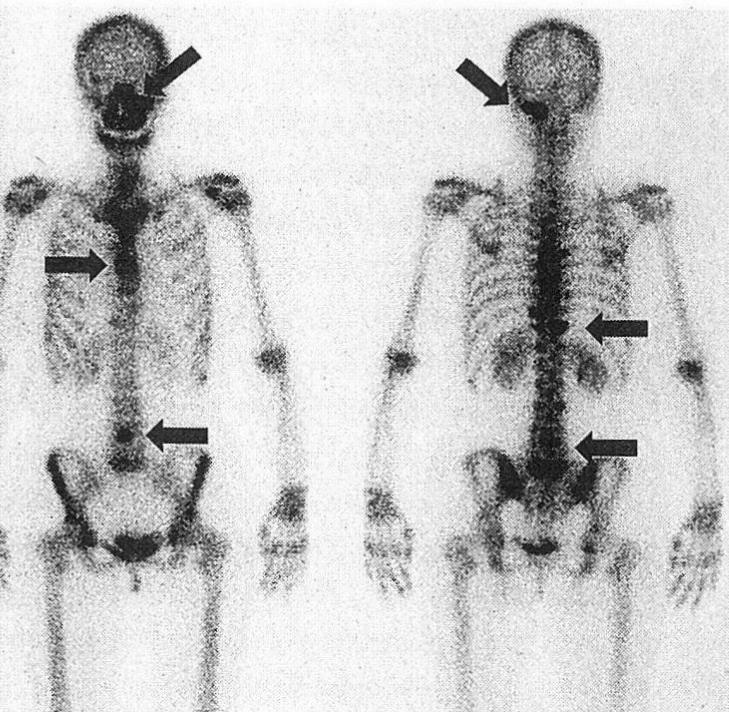
ではなく、あくまで乳がんとして治療します。

使用する薬物の選択は、①がん細胞の特性（ホルモン受容体、HER2）、②がん細胞表面のタンパク質Ⅱの有無）、③月経状態（閉経前、閉経後）、④患者さんの全身状態（年齢、臓器機能の状態）を考慮して決めます。一つの治療法が効

果のある間はそれを継続し、治療を変えることはありません。効果がなくなつてから別の治療法に変更します。

脳は頭蓋骨で囲まれているため、脳転移が大きくなると正常の脳が圧迫されて頭痛・吐き気・まひなどの症状が現れます。また転移が複数箇所であることも特徴です。脳は体を動かす司令塔ですので、転移した箇所により症状は異なります。

脳血管と脳組織との間に
バリアがあつて、ほとんどの
抗がん剤は脳組織には届きに
くいのが実情です。そのため、
放射線治療が主体となりま
す。少數箇所の転移の場合は、
頭部専用に開発されたガンマ
ナイフと呼ばれる装置を使用
します。多発している場合は、
脳全体に放射線照射を行いま
す（全脳照射）。最近一部の
分子標的治療薬（がんの増殖
や転移に必要な分子を抑制）
が効くと言われています。



骨シンチグラフィー。矢印が骨に転移したがん

(阿知須共立病院診療部長、
外科部長)